

## 環境共生地域学特論実験 (2単位)

担当者氏名 濱野周泰

## ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

現代社会で課題となっている地域温暖化や環境汚染など生活環境の悪化によって、地球全体の生態系や人々の健康が大きく懸念されている。このような地球と生命を脅かす問題解決の方策として展開されている「環境共生社会」の先進的事例を見学するとともに、その空間を構成している環境・自然・資源と生物について自然科学、社会科学、人文科学の見地から客観的に把握することを目標とする。

環境共生社会の実現に繋がる成果(博士論文)の完成に向けて、現場の情報を提供することでこれまで培ってきた知識や技術や経験の幅を広げることで研究力のアップを図るべくサポートする。

## ◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

環境形成	日本庭園	都市公園	生物群集
森林帯	樹林管理	地域共生	創造力

## ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	日本庭園の見学と空間構成要素(第1~3週)	・日本庭園を見学することで生物による環境形成を体験する。環境共生の本質に触れる。室内で見学先の庭園を分析し客観的に把握する。	本授業のねらいは、環境共生学特論I・IIの授業内容を現場で確認するものである。理論を現場で適応することにより、新たな発想や思考が生まれる契機になることを期待している。
2	都市公園(緑地)の見学と生きものの把握(第4~6週)	・都市環境の中にある緑地を見学し、生物群集と無機的环境について確認する。室内で都市環境と生きものの生活について両者の関係を把握する。	
3	自然植生(森林)の見学(第7~9週)	・日本の気候帯に対応した森林を見学する。夏雨気候帯の植生と構成種について確認する。室内で森林の特徴と構成している植物を把握する。	
4	樹林管理の現場見学(第10~12週)	・樹林管理が行われている森を見学することで、資源との共生を体験する。室内で考え方を討議する。	
5	地域に共生する森づくりの演習(第13~15週)	・都市再生にともなう都市内の森づくりについて計画・基本設計の演習と発表を行う。	

## ◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

緑のまちづくり / 進士五十八 / 東京農大出版会(2008)

## ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

## ◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

5回のテーマについての議論・発表(60%)および成果(博士論文)中間発表への反映(40%)。

## ◆オフィスアワー

メールなどで事前に予定を打ち合わせるので、特に設定していない。

## ◆その他受講上の注意事項

広い視野を持って多角的に植物による空間を見て、その現場の情報を基本に地域に共生する森づくりを創造して欲しい。